



第84号

会員便り

2022年(令和4年)
3月28日発行

広報委員会 編集 〒732-0816 広島市南区比治山本町 12-2 広島県社会福祉会館内 TEL : 082-254-3019 FAX : 082-254-3018

Index

- 臨時総会
- 中南支部研修会
- 地域包括ケア推進委員会
- 西支部オンライン研修報告
- 次世代育成委員会
- 若年性認知症サポートルーム

- 地域生活定着支援センター
- 連載コラム 加藤 博史氏

臨時総会で承認！当会への入会金など無料化へ！30歳未満限定

【※1】

2月13日(日)に2021年度公益社団法人広島県社会福祉士会臨時総会を開催しました。

この度は、新型コロナウイルス感染症の蔓延に鑑み、オンラインでの開催となりました。

総会では「公益社団法人広島県社会福祉士会会費に関する規則の改正」について、若年層の入会金等の無料化等を審議しました(下記参照)。

理事会等では「無料化を全世代すべきではないか」というご意見もあり、審議を重ねましたが、本会の財政に大きな影響があると判断。30歳未満【※1】で区切るよう理事会で承認された経緯があります。

総会前にいただいたご意見には、「退会者を減少させるため、魅力ある会運営が必須である」という内容も複数ありました。

理事会も早急に取り組む課題だと認識し、「入会促進プロジェクトチーム」を立ち上げ、SNS等を使用した若年層への情報提供、通年での「ウェルカム研修」等の企画を進行しています。

また、臨時総会開催までの経緯について「会員へ丁寧な説明ができていない」というご指摘もいただきました。今後は、会員と理事会双方向の意見共有と情報発信ができる体勢作りを検討して

ゆきます。

ウイズコロナ、アフターコロナでは、会員の皆様へ滞りない情報を発信するため、YouTubeやInstagram等のデジタル配信を行っていきたいと考えています。

県民の福祉向上と本会発展の為、今後も会員の皆様のご理解とご協力を、よろしくお願ひいたします。

【会長 三上 和彦】

【※1】入会年度(4月1日から翌年3月31日までの間)に30歳の誕生日を迎える方までとなります。また入会申込時に30歳であってもその年度内に31歳になる方は適用除外となります。



【第1号議案】

「公益社団法人広島県社会福祉士会会費に関する規則の改正について」

公益社団法人広島県社会福祉士会会費に関する規則の一部を次のように改正する。

第2条第4項の次に「第5項 入会年度において、満30歳を超えない正会員は当該年度の年会費を免除する。」を加える。

付則2の次に「3 第2条第5項の規定は2022年4月1日から3年間施行するものとし、3年目に見直しを行うものとする。」を加える。

【提案理由】

本会の組織を強化するには、若年層の入会促進を図る必要がある。しかし、社会福祉士登録年度に県社会福祉士会へ入会する場合、社会福祉士登録料、入会金、年会費と50,000円程度の負担があり、これを軽減し、入会しやすい環境を整備するため、30歳以下の入会金と年会費を入会年度に限り無料とする。(これらの措置は3年間試行し、その効果を検証する)

県下における社会福祉士登録者数は6,564人で、入会率は16%とどまっています。

職能団体としての機能をより活発化させるためには会員数増加を目指す必要があります。

虐待対応のスキルアップ!! 地域包括ケア推進委員会

2021年度福山市高齢者虐待対応現任者標準研修を、1月17日(月)と18日(火)の2日間、ZOOMを活用したオンラインで開催しました。

研修は、日本社会福祉士会が開発した虐待対応帳票を参考に、福山市のマニュアルに沿った形で、当会の地域包括ケア推進委員会が研修を組み立て開催しています。

今年度も専門的視点・技術の習得・実践力の向上を図ることを目的として、福山市周辺の行政及び地域包括支援センターから約30名の参加となりました。

まだ、虐待対応をしたことが無い方もいましたが、「初動期段階」「対応段階」「評価と終結」の各プロセスに応じたグループワークでは積極的な発言が見られていました。アンケート内容も、「漠然と記入するのではなくきちんと帳票を活用し、評価を繰り返しながら終結を目指したいと思いました」や「演習がハードでしたが、その分チームで話し合うことの重要性が確認できました」など沢山の言葉を頂き、研修の中身自体もレベルアップさせる必要を感じました。【地域包括ケア推進委員会 委員長 榎山 亮】

【地域包括ケア推進委員会 委員長 榎山 亮】

「来年度の実習指導者講習会に向けて」 次世代育成委員会

次世代育成委員会は、「実習指導者講習会」の開催に携わっています。

社会福祉士養成過程が見直され、2025年の国家試験より新カリキュラムの試験内容に変更されます。

社会福祉士養成過程の新カリキュラムは、既に2021年度入学の福祉系大学・短大の入学生から実施されています（一般養成施設は2024年度から）。養成過程の見直しにより、「相談援助」が「ソーシャルワーク」という言葉に置き換えられ、個人だけでなく地域や社会へのアプローチ、複雑で多様性のあるニーズや課題への対応、「地域共生社会」の実現のため、社会福祉士のソーシャルワーク機能を発揮する力が求められています。

その流れにより、来年度の「実習指導者講習会」は 新カリキュラムを考慮した講習会となります。

ただ、従来の講習会の受講・修了でも、引き続き、実習指導が可能です。社会福祉士養成カリキュラムの改正の詳細については、日本社会福祉士会・生涯研修センターの「e-ラーニング講座」にて視聴ができます。

次世代育成委員会では、来年度も(オンラインで)実習指導者講習会の開催を予定しております。準備が出来次第、ホームページに掲載する予定です。 【次世代育成委員会 委員長 石丸 直人】

【次世代育成委員会 委員長 石丸 直人】

「日本に住む外国人の苦労とは？」 中南支部



シリーズ第2弾、「外国人居住者支援について理解を深める」研修会を1月26日に開催しました。ハイブリットでの開催を予定していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、配信のみとなりました。

配信主会場は江田島の古民家を改修し、コワーキングスペースとして提供を始めたばかりの ponteTAKATA を貸切り、会の機材を持ち込み、無事問題なく開催することが出来ました。

できてほっとしました。

第1弾を終え、外国人居住者と言ってもひとくくりにはできず、日本で暮らしている外国人の基本的なことを知る必要があることから、第2弾の企画になりました。技能実習生と定住者では課題が違い、コロナ感染拡大で生活困窮者支援(貸付)に関する問い合わせが増え、言葉が通じないことから聞き取りに苦労した話、そもそも必要な情報が届いていないことなど身近な課題が見えてきました。

このシリーズは来年度も続きます。

【中南支部長 広森 明子】

「会員が気軽につながるオンラインサロン」 西支部

1月23日（日）に「第1回 オンラインサロン」～たまには一息つきませんか～を開催しました。

このオンラインサロンは、日々様々な葛藤が生じやすい現場で活動している会員さんが、オンラインサロンを活用し、専門性を持つ他者同士が気軽に話し合うことを通して葛藤の軽減や専門性の向上を図ること、合わせて社会福祉士会としての活動にも注目してもらい、ともに活動できる仲間を増やしていくことを目的としています。

第1回目は、「私が頑張っていること 私が困っていること」をメインテーマとして、日々の活動など話しました。その後、3つのテーマに分かれ、聞きたいテーマに自由に参加してもらいました。それぞれ活発な情報交換や情報収集ができ、明日の活動へのヒントに繋がったと感じました。

来年度、オンラインサロンは、4回計画しています。しばらくは、西支部会員さんを対象に開催しますが、今後は、他支部会員さんや社会福祉士なら誰でも対象を広げていきたいと考えています。

皆さまの参加をお待ちしています。

【西支部長 原本 明美】



若年性認知症サポートルーム

☎082-298-1034 祝日・年末年始除く月曜日から金曜日 9:00～17:00

2月20日(日)に開催予定だった「全国若年認知症フォーラム in 広島」の開催について、関係機関と協議し、当事者は認知症カフェ等集いの場で視聴される方が多く、また当日スタッフの安全面を考慮し、4月24日(日)に延期となりました。延期となったのは残念ですが、より良いものを作れる前向きに捉え、日々精進しております。

集いの場の話をさきほどしましたが、若年認知症と診断を受けてからの居場所作りも、就労と同等に大きな課題となっており、若年認知症の方だけで集える場所が他県に比べて少ないのが現状です。当事者同士集うことで認知症の進行が緩やかになると言われております。

ご家族の方も、同じ境遇の方とお話しすることで、ストレス軽減の効果もあります。お住まいの地域で、地域のために集える場所を提供して下さる方をご存知ですか？お知り合い等でそのような方がいらっしゃいましたら、当サポートルームまで連絡して頂ければ幸いです。

どうぞ宜しくお願ひします。

【若年性認知症サポートルーム 岡野 宏哉】

司法と福祉をつなぐ 広島県地域生活定着支援センター

☎082-250-0503 祝日・年末年始除く月曜日から金曜日 8:30～17:30

広島県地域生活定着支援センターでは、3月5日(土)に講演会「やりなおせる社会へ」を開催し、特定非営利活動法人食べて語ろう会の 中本 忠子 理事長に、「居場所づくりの大切さ～夢と希望は元気のもと～」と題して講演をいただきました。

講演の中で中本氏は、子ども達に『夢と希望は薬になる、あきらめは毒。だからこそ、夢と希望を持つことが大切』と伝えていること、また子ども達に接する際は「指導型(教えてやる)」ではなく「支援型(支えていく)」の姿勢が重要である、と話されました。さらに、「人間の基本は『愛情』」、「反省は一人でもできるが、更生には複数の支援者が必要である」とも話されました。

最後に「私たち一人一人ができることは何ですか」という質問には、「刑務所から帰つた重い荷物を背負った人は、人から必要とされた経験がない。人から必要とされている、と感じられる言葉かけを、みなさん行ってください」と言われました。

初めてのオンライン開催でしたが、117名の方に聞いていただくことができました。中本さんの言葉を心にとめて支援していきたいと思います。

【広島県地域生活定着支援センター 仁井 恭子】



講師 特定非営利活動法人 食べて語ろう会 理事長 中本 忠子氏

昭和57年から、自宅で子ども達に食事を提供する活動を開始。現在は「特定非営利活動法人食べて語ろう会」を拠点に、学習支援、法律相談などの活動を幅広く実施。また少年院や刑務所を出た後、帰る場所のない人を引き受けたい、という長年の思いから、令和元年5月には自立準備ホームを整備。「広島のマザーテレサ」と呼ばれ、関連書籍も多数ある。

連載

生きづらさと北新地事件

龍谷大学名誉教授 加藤 博史

昨秋、40年ぶりに日本精神神経学会の大会シンポジウムに登壇させてもらいました。1981年、名古屋市公会堂での大会は、司会者が記しているように、初めて精神科医の学会が大会シンポで「福祉」を取り上げたものでした。私は指定討論者でしたが、発言内容を『精神神経学雑誌』(83-12:808-810)に、「街で患者として暮らすものの生きづらさ(主体的・社会関係形成の障害と抑圧)とPSW機能」という論考として掲載してもらいました。北大の研究者の調査によると、「生きづらさ」という用語を学術誌で使われたのは、これが最初とされています。ここで定義した「主体的・社会関係形成の障害と抑圧」について、12月17日起きた「北新地事件」と関連させて改めて考察します。

事件は、自殺念慮を持つ加害者Aによる無差別大量殺人巻き込み自殺というものでした。Aには、心底から安らげる場所を精神芯部に見つけられなかったのではないかと思います。私たちは、無条件で大切にされ受け容れられる体験を基に、この安らぎの場所を心の中に育みます。無条件というのは、「何かできたら」とか、「こんな姿だったら」等の前提条件無しに、生きていることそのもの(ビーイング)が大切にされる、ということです。学校では成績偏差値で子どもを序列化し、社会では熾烈な業績競争が格差分断を強います。落ちこぼされると困窮と孤立と侮蔑が襲い、その苛酷さは近年増しているようです。

一般に、乳幼児期、親に虐待やネグレクトされた人は、虐待に敏感ですし、常に見捨てられ不安を抱えています。存在の中心に安心感がないから、些細な言動で死ぬほど苦しみ、傷つけた人や社会を死ぬほど恨みます。これは、至極当然のことです。この被虐待像とAが重なります。児童虐待が増えている今日、不安定な自己を抱え、自己と他者と社会を全否定する人も増える道理です。

「主体的・社会関係形成の障害と抑圧」は、今日の用語では、「ディスエンパワメント状況」になるでしょう。森田ゆりは、エンパワメントを「自分の大切さに気付き、自分の源に触れること」と語っています。そして、森田は、我が子を虐待してしまった母親のセルフヘルプグループに取組み、そのエンパワメントを支援しているのです。

SWは評論家ではありません。SWは、答えが見えないまでも、悲苦に寄り添い、分かち持ち、不断の相互変容に挑みます。自分を一番下に降ろし、ビーイングの悲しみに傾聴することを通してしか、不条理に殺された25人の一人ひとりのいのちと、生きづらさからくる怨念の闇の中で、人殺しに至ったAのいのちに、応答することができません。

社会関係資本はクオリティが重要です。SWはAが剥奪されていた「真剣に悩み祈ってもらえる関係」、「悲苦の受容から自他を大切にする喜びを創る関係」の糸口提供者であり、共同創造の体現者でありたいものです。

加藤先生のコラムは今回が最後となります。

長期にわたり、私達に優しく「福祉哲学」について問い合わせてくださいました。

本当にありがとうございました。

編集後記

◆友達から届いたレモンと新玉ねぎでドレッシングを作った。私の春がやってきた♪(杉本) ◆朝起きて庭を見て、「やった~雪だあ~!」から「うわあ、雪かあ…」の第一声の変わりから、改めて中年おじさんになっている自身に気付かされた…(巴) ◆コロナ禍でアマゾンプライムにドハマリ!! まずい!! 何も手につかない(汗)!!(酒井) ◆只今コロナワクチン副反応中。毎回熱発します。耐えて過ぎるのを待つのみです(坂本) ◆なぜ社会に入るのかと聞かれたらそこに仲間がいるからと答えます(藤浴) ◆今年も寒さに耐えました。春が待ち遠しいです。(幸本)

次回は令和4年7月発行予定です

